

ブルックスアリーナの冷暖房設備 早期設置への取り組みを

問 プロバスケットボールチーム「リンク栃木ブルックス」の全国優勝という快挙に多くの市民は喜び、市の名声も高まっている。

ブルックスは拠点を宇都宮市に置き、市も市体育館をブルックスアリーナと愛称を付け提供しているが、冷暖房設備がないことから、冬の練習はもっぱら鹿沼市の体育館が使われてきた。

設備の改善は、今年度予算で設計に入り供用開始は来年度以降になるとのことであるが、一日も早く設備改善がされ、この冬から使用できるように補正予算を計上してはと思うが見解を伺う。

答 市体育館は、市民スポーツ活動から全国大会、さらにはリンク栃木ブルックスのホームアリーナとして活用されているが、老朽



▲ブルックスの試合の様子

化が進むとともに利用ニーズに即した施設機能が十分でないことから、冷暖房設備を他の整備に先駆けて設置することとした。

しかし、既存の体育館に冷暖房設備を整備した事例が全国的にも少ないことから、現在、設備設置の調査委託をかけ、空調負荷計算や電気方式とガス方式の比較などの検討をしている。

冷暖房設備は機器が受注生産となり、また、設置のための休館が必要であるが、今年度はすでに各競技の大会やブルックスの公式戦などの予約が入っていることから、来年秋の設置を目指し早期に発注する。

市税等の収納率向上への具体策は

問 本年度の一般会計当初予算のうち、

市税は863億8,840万円、歳入全体の47.7%を占めるが、企業収益の著しい悪化などを背景に、前年度比57億2,630万円減のマイナス62%となっている。

各自自治体では、収納率向上のため、コンビニエンスストアやクレジットカードでの納付を可能とし、足利市では4月から、市税等徴収指導員に国税局OB職員を採用するなど、さまざまな取り組みを実施している。

答 本市では、平成11年度に「市税等収納対策本部」を設置したが、長引く不況の影響で収納率が低下したため、新たな滞納者の抑制策として、昨年9月に「納税催

告センター」を設置した。今年度は、コンビニ収納の税目も拡大し、納税しやすい環境整備に取り組んでいる。

また、個々の状況に応じた納税指導や預貯金などの差し押さえを実施するとともに、県との連携により滞納整理に努め、4月には「特別収納対策室」を設置し、市税のほか国民健康保険税や保育料など6つの債権のうち、長期・高額で悪質な滞納者に対し、一体的・効率的な滞納整理に着手した。

今後、職員のノウハウを十分活用し、関係機関との連携を一層密にししながら、株式の差し押さえなど新たな収納対策にも取り組み、市税等の収納率の向上に努めていく。



DV被害者へわかりやすい 相談窓口の周知・広報を

問 DV被害者には、市の広報紙も入手

できず、市役所に来ることができない、相談窓口がわからない人もいる。このような被害者への対策が必要と考えるが見解を伺う。

また、新聞の社説にも掲載されていたが、DV被害者をなくすには学校教育での人権教育しかないと考えるが見解を伺う。

答 本市では平成20年4月に配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者からの相談や緊急時の安全確保などに取り組んでいる。

また、市医師会・歯科医師会の協力により、医療関係者から被害者へDV相談窓口等を配布し、相談窓口の紹介を行っており、今後とも様々な機会を捉え、関係機関と連携を図りながら、引き続き、相談窓口の周知に努める。



▲相談窓口周知用ステッカー

人権教育については小学1年生からすべての教育活動を通して推進しており、身近な問題と関連付けながら人権について考える授業を各教科において展開している。

また、道徳の時間や宿泊活動などの集団活動においても人権意識を高める指導を行っており、今後とも人権教育をより充実させ豊かな児童生徒の育成に努める。